

6年生・あおぞら学年 飛島修学旅行 (令和2年8月4日～5日) ～思い出の写真日記⑥ 最終～

<新聞記事の紹介>

修学旅行 飛島に脚光

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、酒田市の沖合にある本県唯一の有人離島・飛島が修学旅行先などとして、需要が高まっている。感染リスクの高い首都圏などの県外を避け、飛島に行き先を変更するケースが多く、市

はコロナ禍で生じた新たな「安心できる観光需要」として、今後、積極的に受け入れる方針。5日は山形市の山形四小(日高伸哉校長)の児童が1泊2日の日程を終え、酒田港に戻り、丸山至市長らが出迎えた。

感染リスク低く、島の体験貴重



コロナ禍で修学旅行や自然体験の需要が高まっている
本県唯一の有人離島・飛島から戻った児童
＝酒田市・酒田港

酒田市、積極誘致へPR

山形四小は当初、12月に東京方面に行く予定だったが、感染拡大を受け、夏休み期間を利用し、飛島での修学旅行に変更した。6年生34人と引率教員ら6人の計40人が4日からの1泊2日で来島。自然観察や島の

市によると、山形四小の他、既に来月1、2日に米沢二中の約180人、同3日には河北中の約90人が訪れる予定。地元・酒田市内の小中学校も日帰りで訪れる予定があり、修学旅行や自然体験などで選ぶケースが増えているという。飛島は酒田市の沖合39キロにある。行き先を変更した学校の教頭らは「感染リスクが少なく、県内でも足を運ぶ機会が少ない場所だから」「自然も豊かで、島ならではの体験ができる」などと理由を述べた。

市によると、山形四小の他、既に来月1、2日に米沢二中の約180人、同3日には河北中の約90人が訪れる予定。地元・酒田市内の小中学校も日帰りで訪れる予定があり、修学旅行や自然体験などで選ぶケースが増えているという。飛島は酒田市の沖合39キロにある。行き先を変更した学校の教頭らは「感染リスクが少なく、県内でも足を運ぶ機会が少ない場所だから」「自然も豊かで、島ならではの体験ができる」などと理由を述べた。

山形四小は当初、12月に東京方面に行く予定だったが、感染拡大を受け、夏休み期間を利用し、飛島での修学旅行に変更した。6年生34人と引率教員ら6人の計40人が4日からの1泊2日で来島。自然観察や島の

市によると、山形四小の他、既に来月1、2日に米沢二中の約180人、同3日には河北中の約90人が訪れる予定。地元・酒田市内の小中学校も日帰りで訪れる予定があり、修学旅行や自然体験などで選ぶケースが増えているという。飛島は酒田市の沖合39キロにある。行き先を変更した学校の教頭らは「感染リスクが少なく、県内でも足を運ぶ機会が少ない場所だから」「自然も豊かで、島ならではの体験ができる」などと理由を述べた。

市によると、山形四小の他、既に来月1、2日に米沢二中の約180人、同3日には河北中の約90人が訪れる予定。地元・酒田市内の小中学校も日帰りで訪れる予定があり、修学旅行や自然体験などで選ぶケースが増えているという。飛島は酒田市の沖合39キロにある。行き先を変更した学校の教頭らは「感染リスクが少なく、県内でも足を運ぶ機会が少ない場所だから」「自然も豊かで、島ならではの体験ができる」などと理由を述べた。

(秋葉宏介)



飛島を修学旅行で訪れた山形市立第四小の児童たちへあいさつする丸山至酒田市長
＝酒田市船場町2丁目の定期船発着所

飛島に修学旅行 県内学校が注目

東京など都市部避け「早期実施」

コロナ禍の先行きが不透明な中、修学旅行先として、県内唯一の離島・飛島（酒田市）が注目されている。東京などの都市部へは避けたい。受け入れ側も、身元がはっきりしている学校なら心配が少ない。思惑が一致した形だ。

新型コロナ

5日午後1時前、同市船場町2丁目の定期船発着所に、飛島から戻る船が到着した。乗客は、修学旅行で島を訪れた山形市立第四小学校6年生の児童34人らだ。島で1泊した大森柚月さん（11）は「山形市とは違う経験、飛島ならではの絶景が楽しかった」と笑顔を見せた。

「県内で、早期実施」と変更した。日高伸哉校長は「東京方面の良さもあるが、県内でも実はわかっていないことはたくさんある。地に足を着けた活動という事です」と話した。酒田市によると、飛島への修学旅行は「今回がおそらく初めて」。9月以降、県内の中学校2校が日帰り旅行を予定しているという。この日、発着所で同小を出迎えた丸山至酒田市長は「離島で自然が豊かで、ジオパーク（GP）にも認定。過疎問題などの『学習』も出来る」とPRする。

「事前に体調把握 低リスク」

飛島は人口2000人弱で、常駐する医師もいない。集団感染の危険性が高いとして、市は一時、「渡島自粛」を呼びかけていた。しかし、修学旅行なら「事前に体調の把握なども可能で、リスクは低い」と考える。

丸山市長は「東京に行く

ことだけが修学旅行じゃないということも含め、コロナ禍がいろいろなことを気づかせてくれた」。船の便数や宿泊施設、医師不在といった課題もあるが、「こうした輪が広がることは、改善への弾みにもなり、ありがたい」と期待する。

（鶴沼照都）

2020.8.6(木) 朝日新聞

修学旅行は飛島へ

「山形四小が第1号 もっと来て」
酒田市、県内小中にPR

山形市立第四小の6年生34人が1泊2日（4～5日）の修学旅行で、酒田市の飛島を訪れた。引率した日高伸哉校長は「新型コロナウイルスを考慮し、

従来の東京方面から変更したが、いい経験になったようだ」話した。同市は飛島を、コロナ禍における県内児童・生徒の修学旅行先としてPRしていく。



「とびしま」から下船する山形四小6年生を丸山至市長（右）が出迎えた—酒田市で

飛島は、酒田港から北西約40キロの沖合に浮かぶ県内唯一の有人離島。常駐の医師がいな

いなど医療体制が整っていないうえ、感染すると重症化しやすいとされる高齢者が8割近くを占め、6月中旬までは首都圏などからの観光客に来島の自粛を要請した。現在も、来島する際は、健康状態に問題がない人でも感染防止に留意するよう呼び掛けている。

一方で、市は団体旅行でも、身元がはっきりしている修学旅行なら感染リスクを低く抑えられるとして、山形四小を契機に新たな修学旅行先として受け入れを促進し、交流人口の拡大を図る方針。市によると、米沢市と河北町の中学校から合わせて生徒約270人が、9月1～3日に訪れる予定という。

丸山至市長は5日昼

高齢者運動普及へ

学部副看護部長が講演



新型コロナウイルス感染症推進員 天

過ぎ、定期船「とびしま」で酒田港に戻った山形四小児童らを出迎え、「修学旅行で来てくれたのは皆さんが第1号。山形市と酒田市の橋渡しになっていたんだき、もっと来てほしい」。大森紬月さん（11）は「絶景や豊かな自然と触れ合え、楽しかった」と話した。

【高橋不二彦】



一題

「星がきれい、海が光った」。山形市立第四小学校の6年生34人が先頃、酒田市の離島・飛島への修学旅行で体験した感想だ。12月に東京方面に行く予定を、新型コロナウイルス感染拡大を避けて変更した。一晩泊まりの飛島自然体験で、都会では得られない印象を心に焼き付けた。

修学旅行で見聞を広げる。目はどうしても大

修学旅行先には飛島がいいぞ

聞き、きれいな自然を体験しにやってくる。

都会に向くが、それだけが修学旅行ではない。まず、生まれ育った地域のことをしっかり知る。飛島の行政区域は酒田市だが、山形県の島でもある。飛島の存在を初めて知った児童もいたようだが、修学旅行は、まず足元から知ることが大切だと、コロナ禍が教えてくれたようでもある。

◇

◇

飛島で、県内陸部の学校の宿泊を含む修学旅行を受け入れるのは、今回が初めてという。酒田市内の小学生は、郷土を知る学

習の一環として卒業するまでに一度は島に渡る「飛島体験学習」をしている。今回の山形四小の場合は、「内陸在住者は渡島することが少ないので、この機会にぜひ」という学校の考えだった。コロナ禍での予定変更とはいえ、県土を知る意味でいい選択だったのではないか。

飛島では島に移住した若者たちが運営する合同会社「とびしま」の社員による島の案内人「とびしまコンシェルジュ」のガイ

ドで島内を歩いた。夜は小松浜海水浴場で、水をかき回すことで見ることができると夜光虫の光に驚き、空を見上げれば山形市では見られない星の輝きがあり、児童たちも星に負けじと目を輝かせた。

児童の宿泊は同会社が運営する旅館が受け入れた。感染防止のため気を使ったことについて、旅館部門を担当する渡部陽子さんは「アルコール消毒、熱中症を避けることも兼ねて窓を開け、氷水を用意し、部屋は6畳間に2人、20畳の広間に9人など、

接近しないようにした」と話す。食事ではサザエを見たことのない児童もいたという。海の幸を知る新鮮な出会いになった。

◇

◇

島民人口180人余、高齢化率は約77%。医療体制が十分でなく、酒田市が渡島の自粛を呼び掛けた時もあったが、感染防止対策に万全を期すことで受け入れた。9月上旬には米沢市と河北町の中学生計約270人が、日帰りだが飛島の歴史と生活の話を

市は感染予防に配慮した教育旅行なら安心して受け入れられると積極的にPRし、宿泊施設の整備を図っていく方針だ。コロナ禍での修学旅行は、従来の都会偏重から、故郷を学ぶことに目を転じる一つのきっかけになった。都会の華やかさの体験は普段目にしている映像と同一化してしまうが、飛島で目にした新鮮さと発見は心に焼き付くに違いない。渡部さんは「子どもの声が聞こえると、島の人が元気になります」と話す。それも修学旅行の力である。

修学旅行先 飛島に脚光

県内の小中コロナで首都圏から変更

新型コロナウイルスの感染が拡大している首都圏などを避け、小中学校の修学旅行先として酒田市の飛島が注目されている。4、5日には山形市立第四小学校の6年生34人が訪れたほか、9月にも、米沢市や河北町の中学校が修学旅行の行程で訪れる予定。市では引き続き、積極的に受け入れることにしている。

県内で唯一の離島・飛島で修学旅行先選ばれたのは酒田市によると、これまでとはなく、今回が初めてに



定期船発着所で、丸山市長（左）から記念品を受け取る児童代表ら（酒田市船場町で）

なるといふ。

第四小は例年、12月上旬に都内のスカイツリーや浅草寺などを巡っていた。だが今年は、安心・安全を担保するのが難しく、第2波、第3波を考えると、できるだけ早く判断すべきだ」として6月下旬に飛島を行き先に変更した。

日高伸哉校長は「普段なかなか訪れられない場所で、色々な体験をして学ぶという、修学旅行の目的を実現できる」などと、選んだ理由を話す。

1泊2日で島に渡った児童と引率教諭計40人は、滞在中、港を一望できる岩に上ったり、海釣りや夜光虫観察を体験したりするなど、飛島の大自然を満喫。大森袖月さんは「絶景や自然に触れあえて、すごくいい経験になった」と話した。

5日には、丸山至市長が、

同市船場町の定期船発着所で島から戻った児童らを出迎え、代表に記念品を贈った。

約180人が暮らし、常駐する医師がいない飛島は、感染者が出ると集団化する懸念がある。だが市では、修学旅行の場合、事前に来島者の身分、体調などを把握できることなどから、リスク軽減につながるとしている。

丸山市長は、定例記者会見で「島を訪れる人が増えれば、振興の仕掛けがしやすくなる。学習の場としての活用をアピールしていきたい」などと語った。

漁業者 懸念訴え 知事と意見交換

新型コロナウイルスで影響を受けている県内漁業者と吉村知事らの意見交換会が、県庁で開かれた。漁業者からは、感染防止でイベントの中止が相次ぎ、準備した魚の行き先がないことや、閉鎖している海水浴場での事故を懸念する声などが上がった。

年少めに禁報で心日な水